

刀 銘 左衛門尉藤原氏房造／永祿十三年四月吉月

法量 刃長 700mm 反り 12mm 元幅 27.3 (28.7)mm 重ね 6.6mm 鎗重 7.2mm 先幅 19.7 (20.5)mm 先重 4.4mm 先鎗重 5.2mm

形状 鎗造り、庵棟、反り浅く、元先の幅差少なく、中切先伸び、平肉枯れる。

鍛 小板目精良につんで流れ、鎗地証がかり、淡く乱れ映り立つ。

刃文 匂い口締めまりごころの表裏揃った浅い湾れを基調に互の目を間遠に焼き、所々短い足と葉を交え、三・四の飛び焼きを置く。

帽子 弛んで先小丸、返り断続しながらやや長く、裏は短い。

茎 摺り上げて先ブツ切、棟も摺られて角、鑢目ごく浅い勝手下り。

左衛門尉は永祿十三年四月に若狭守を受領する際、宮中に参内した時の借位であろう。刻銘「左」の一部と「永」は底銘となる。古刀は四月を二二月と刻すのが慣わしであり、本工も元龜年紀はそうにあるが如何なる理由であろうか。また最後の吉月も誤字か否か定かでない。

縮小率 43%

無断転載禁止

